

総務常任委員会  
予算常任委員会総務分科会

(平成29年6月19日)

○ 村山繁生委員長

皆さん、おはようございます。ただいまより総務常任委員会を開会いたします。

まず、今委員会中に所管事務調査として取り上げたい事項があるかないかをまずお諮りしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(なし)

○ 村山繁生委員長

よろしいですか。

じゃ、今委員会中はなしということをお願いいたします。

なお、審査の関係資料については、会議用システムのほうの皆さんのお手元にきょうの審査順序があると思いますが、その一番後ろにどこを開くかということも載せてもらっておりますので、また参考にしてください。

それでは、政策推進部から始めます。

議案第2号 平成29年度四日市市一般会計補正予算（第2号）

第1条 歳入歳出予算の補正

歳出第2款 総務費

第1項 総務管理費中関係部分

○ 村山繁生委員長

これより、議案第2号平成29年度四日市市一般会計補正予算（第2号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費中関係部分の審査を行います。

まず、部長より、挨拶をいただきます。

○ 館政策推進部長

おはようございます。座って失礼します。

本日から委員会ということでございます。政策推進部、トップバッターということでご

ございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、ご案内のとおり、マーケティング調査事業費1本でございます。本日、30度を超えるような、暑くなるというふうに聞いておりますが、暑くなる前にきちんと終われるように、きちんと説明させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 荒木政策推進部次長・政策推進課長

政策推進課長の荒木と申します。済みません。よろしくお願いいたします。

私ども、四つ資料を用意させていただいています。一つが予算書、もう一つが予算常任委員会資料、それと、補正予算の参考資料、補正予算参考資料の追加分というふうに四つ用意させていただいていますが、説明につきましては、補正予算参考資料と補正予算の参考資料の追加というものでご説明申し上げます。

まず、補正予算の参考資料というのをお開けください。

ご案内させていただきます。01の本会議、05の29年6月定例会、07、平成29年度6月補正予算参考資料というものを開きください。

○ 村山繁生委員長

よろしいでしょうか、準備のほうは。

○ 荒木政策推進部次長・政策推進課長

そのタブレットナンバー21分の3をよろしくお願いいたします。

○ 村山繁生委員長

よろしいですかね。じゃ、お願いします。

○ 荒木政策推進部次長・政策推進課長

マーケティング調査事業費ということで、目的といたしまして、日本のものづくり産業をリードし、さらなる発展を目指すべき本市において、これまで築いてきた優位性や独自性をさらに伸ばし、都市の魅力を高めるとともに、2027年に予定されておりますリニア中央新幹線、東京一名古屋間の開通によりまして、首都圏東京が1時間半圏になるという本市の高い地理的優位性を生かしまして、持続的な発展、交流人口の増加、ひいては定住人

口の増加を図っていく必要があるということから、本市の優位性を市内外に効果的に発信いたしまして、魅力を広くアピールするため、マーケティング手法を用いた効果的なシティプロモーションの方策を打ち出していくということを目的といたしてございます。

内容といたしまして、マーケティング調査でございますが、効果的なシティプロモーションを実施していくに当たりまして、本市の強みでございますとか弱みといった特徴を改めて把握するということから、市内初め、名古屋圏等の大都市部の方々にアンケート調査等を実施しまして、市民の方々が本市に対して抱くイメージでございますとか、誇り、愛着、また、市外の方々から見た本市のイメージ等を把握いたしまして、それを、違いなどを分析いたしまして、効果的なシティプロモーション方策の検討を行いたいというふうに考えてございます。

委託業務の内容といたしましては、追加資料のほうで詳しく後ほどご説明申し上げます。

スケジュールでございますが、予定いたしてございますのが、8月にはプロポーザル方式によりまして業者選定を行っていきたいというふうに考えてございます。9月、10月でアンケートの内容でございますとか項目、あるいは調査範囲といったアンケート手法の設計を行いまして、その後、11月、12月でアンケートの実施と分析を行いたいと。そして、年が明けまして1月から3月にかけて、戦略的なシティプロモーション方策の検討を行っていくという予定でございます。

補正予算額といたしまして、1200万円をお願いするものでございます。

続きまして、委託業務の内容、詳細でございますが、お手数でございますがタブレット端末のほう、ちょっと戻っていただきまして、01、05の平成29年6月定例月議会の中の14番、6月補正予算参考資料追加、6月6日追加配付というものを開きいただけますでしょうか。

## ○ 村山繁生委員長

よろしいですか。

## ○ 荒木政策推進部次長・政策推進課長

こちらのタブレットナンバー13分の3ということで、マーケティング調査事業に係る委託料についてという委託料の詳細でございますが、アンケート調査とヒアリング調査、シティプロモーション方策の検討ということで、大きく分けて三つ考えてございまして、ま

ず、アンケート調査といたしましては、市民の方々の本市への愛着度、誇り等データ、これをアンケート調査により収集いたしまして、市民の方々の考えている市の魅力について発掘いたしたいというふうに考えてございます。

次に、名古屋圏等の大都市におけます本市の知名度、都市イメージ、訪問頻度などにつきまして把握いたしまして、市民が考える魅力と他都市から見る本市の魅力等を比較するなど、アンケートの調査結果の分析を行ってまいりたいというふうに考えてございます。

また、ヒアリング調査といたしまして、アンケート調査結果をもとにある一定のターゲット層の検討を行うとともに、本市にゆかりのある方々や20歳から30歳代の女性の方々等も含め、意見交換を行うことによりまして、支持するまちの魅力でございませつか情報等について把握してまいりたいというふうに考えてございます。その上で、具体的なシティプロモーション方策を検討いたしたいというふうに考えてございます。

具体的には、訴えたい魅力のわかりやすいストーリー化でございませつか、あるいは、キャッチコピーの設定等々、効果的な情報発信について検討を行うとともに、魅力資源等の整理、情報発信の方法、戦略的なシティプロモーション方策の検討を行いたいというふうに考えてございます。

簡単ではございますが、説明については以上でございます。よろしく願いいたします。

## ○ 村山繁生委員長

ありがとうございます。

説明はお聞き及びのとおりでございます。

それでは、ただいまより質疑をお受けいたしますが、その前に、皆さんにちょっとお願いしたいことがございまして、今年度は議長、副議長のほうから、とにかく委員会のほうでも議員間討議を活発にしてくれというような指示も受けておりますので、また皆さん、そういう場があったら大いにやっていただきたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

それでは、質疑をお受けいたします。ご質疑のある方は、挙手の上、ご発言ください。

## ○ 中川雅晶委員

プロポーザルで業者を選定して、方法としてはアンケートを用いると。アウトプットとしては方策――これは戦略なのか計画なのかよくわかりませんが――そういうアウトプッ

トやということの説明はわかったんですけど、このアンケート——マーケティングなので、マーケティングという言葉だけでなかなかイメージできないと思うんですけど——まずは市民の意識調査というか、本市に対する魅力であったりとかというところの意識調査と、それから、近県、名古屋の皆さんへの四日市に対するイメージであったりとかマーケティング調査をするというところと、それに基づいた比較分析ということだけなんですけど、イメージとしては、やろうとしていることは、市民が考えている本市と、近県から四日市に来てほしいというような戦略だけにとどまっているように見えるというところで、例えば、今、やっぱりインバウンドで、従来のインバウンドと変わってきているのは、例えば京都とか奈良とか、従来の観光資源と僕らが思っていた観光地ということよりも、本当の日本の農村であったりとか、本当の日本の生活を感じたいというところにシフトをどんどんして行って、また、体験でちょっとしたスキーの体験とか、そういう本当に素朴な、僕らから見たら何でもない、ここになぜ来るのかよくわからないというところのインバウンドのそういう欲求というのがある中で、既にマーケティング調査の段階からもうインバウンドを諦めているという感じに読みとれるんですが、その辺はどうなんですかね。

#### ○ 渡辺政策推進部理事

今、中川委員のほうからご指摘がありましたインバウンドということでございますが、確かに今回のマーケティングを行いたいという中心は、今委員がおっしゃったように、四日市市民の愛着と誇りをどういうふうにこちらが把握するか、また周辺、特に名古屋圏の、特に四日市から実際名古屋にかなり多くの方が出て行ってみえるという実態がございますので、そのところを中心にやっております。

インバウンドというお話になりますと、どちらかというところ商工農水部のほうがいろんな取り組みをする中で——先ほど農村の話が出ましたけれども例えば外国船の誘致のお話もありますとか——そういった視点がないわけじゃないんですが、確かに今、この調査においては、先ほど来次長が申し上げたような内容で今回はやっていきたいというふうに考えてございます。

#### ○ 中川雅晶委員

その考えも、そういうところに絞ってというのも一つは、選択としては否定はしないんですけど、当然、商工農水部と連携するというのが前提の僕は話だと思うので、それは前

提にしないなんていう選択肢はないと思いますので、それを部局横断的に政策として仕上げていくのが政策推進部の仕事であるならば、そこを当然入れて、外国船のこれから誘致というか、どんどん始まっていくわけで、外国船が来ただけでは何もシティプロモーションにはならないので、そのバックグラウンドをどうつくっていくかというところもやっぱり重要なので、その視点が抜けているというのは、この時期にというかタイムリーに適應していない。適應していないということはマーケティングしていないということなので、その辺はちょっと、もう少し考えられたほうが。

それも含めて、余り限定し過ぎて、近県から選んでもらうようにだけに絞っているのはどうなのかなって。それも重要な視点であることは間違いないんですけど、もう少し広角的に見ていただく部分というのも、せっかく調査なのであって当然だと思いますので、余り限定し過ぎることによってつまらない方策になってしまう可能性があるのではないかなというのがあります。

これ、いろいろ調べてみたら、四日市市観光・シティプロモーション条例に基づいてこういうこともしていこうというふうになっているのかなと思うので、その辺はどうなんですか、まず。

## ○ 渡辺政策推進部理事

今、ご指摘がありましたように、四日市市観光・シティプロモーション条例というのがまず制定してございます。28年4月が施行日ですが、それに伴うように、まず、四日市市の観光・シティプロモーション戦略ということで、外部の方も入っていただく中で、四日市市が今後打っていく内容についていろいろ議論をした上で、戦略という形でまとめてございます。

その内容については、商工農水部のほうでそれをやっておるわけですが、地場産品の関係でありますとか、いろいろこれまでのものを踏襲するようなものも大ございます。今、市長が申し上げています、例えば、子育てするなら四日市とか教育の充実とか、いろんな今後、先々考えるシティプロモーションというお話しになりますと、商工農水部だけではなくて環境部であるとか、いろんな幅広い内容でシティプロモーションを打っていく必要があるというふうな考えがございます。その中の、例えば東海道でありますとか、先ほどの外国船の誘致もそうですけれども、そういったものも当然織りませた上で、シティプロモーションの方策については検討を加えていくということの考えでおります。

## ○ 村山繁生委員長

中川委員の言われる、そういった横断的なことは前提にあるということが、中川委員は視点がないのやないかと言われたけれども、それではないと。ちゃんとそういった横断的なことは踏まえた上で、今回はこれに特化してやるという意味ですね。

## ○ 館政策推進部長

今回のマーケティング調査事業費の中身は、基本的に、最終的に交流人口、それで最終的に定住人口の増加を目指していきたいというのが一つ目的がございます。したがって、今の焦点としては、四日市の魅力を知ってもらって、来てもらって、最終的には先ほど理事が申しましたように四日市のいろんな各種施策ですね、教育の施策、環境の施策、あるいは都市整備の施策、それを全部織りまぜて、やっぱり、住みたい場所にしていくということに、いろんな施策に今度反映していく必要があるわけですね、実行していくに当たっては。その一番の根本になるところ、どういったところにターゲットを絞って、どういったところの内容を四日市としてアピールしていくと効果的に四日市に来ていただいたり、あるいは、最終的に住んでいただけるかというところを探っていきたいということです。

ですから、議員のおっしゃるようないわゆるインバウンド、観光、特に外国人の観光という面が、例えばこの中で、四日市の魅力というところら辺がある程度あぶり出されてきて、これが商工農水部で今取り組もうとしておる客船誘致協議会の中の取り組みに、今回の魅力とかそういうところをうまくそこへ結びつけていくということも、我々頑張って調整しながらやっていきますので、今回の成果が単に政策推進部だけにとどまるものではなくて、全庁的にこの戦略をつくった上で実施していくということでございますので、ぜひその辺は我々気をつけて、全庁的な取り組みになっていくように頑張っていきたいと思います。

## ○ 中川雅晶委員

今聞くと何となくそのイメージは、なるほど、そういうことなのかなってわかってくるんですけど、でも、ここへマーケティングを活用したシティプロモーションってなっているんですね。シティプロモーションは観光・シティプロモーション条例があって、今言っている内容よりも少し、今の話であれば、交流人口と定住人口をふやして人口減少をな

んとかとどめたいとか阻止したいという意味合いでマーケティングに取り組んで、定住してほしい、近県から来てほしいというところの戦略にシフトした今回のマーケティング調査となっているんですけど、でも、タイトルを見るとマーケティングを活用したシティプロモーションになるので、シティプロモーションだったらさっき言ったように幅広く観光も入ってくる、観光・シティプロモーション条例ともかかわってくるところで、なかなかちょっと僕の頭の中ではイメージできないので、マーケティングの調査をすること自体は何も否定することではなくて、これはやっていかなきゃいけないし、むしろ遅いんじゃないかなって。

もうこれ、例えば観光・シティプロモーション条例を見るだけでも、28年の4月1日から施行されているんですよ。この中にも、市の責務として総合的な施策を策定し実施するものとして書いてあるんですけど、もう既に1年以上たって、今からマーケティング調査かというところも本当に。既にもう定住人口、交流人口の増加のためのこういったマーケティングを活用して調査をして、戦略なり計画を策定するというのを、調べてみたら、やっぱり町田市とか東村山市とか、近いところでは豊橋市とか、そういうアウトプットのものは出ていて、今、部長とかが説明された大体同じようなもののアウトプットになって、みんな大体そうやって委託業者に頼むと同じようなアウトプットとして、成果物として出てくるところが少しおもしろくないので、やっぱり独自性というか、本当に四日市の潜在的なものを引き出すというところの調査をしていかなきゃいけないとなると、本当にアンケート調査だけで大丈夫なのというところの疑問が残るんですが、そこにとどまらないと、ここからどんどん進化をするんやというのがあれば教えていただきたいなと。

## ○ 渡辺政策推進部理事

議員おっしゃるとおりだと私も思います。先ほど次長が説明する中で、ヒアリング調査というのがございました。何も一つのターゲットだけというわけではございませんけれども、今考えていますのは、比較的若い方、それで、どちらかというと女性の方を数多くヒアリングというものを通じて、いろいろ意見の集約を図りたいというふうに考えています。

今おっしゃられたように、外を向いて打って出るときに、今一番感じているのは、今の市民の方の意識が一番大事だというふうに考えています。最近の言葉でいうとシビックプライドという言葉を使うらしいですが、今、四日市に住んでみえる方が、四日市に対する思いというものがどういうものがあって、また、市民の方が四日市に対する思いの延長線

でどういうふうな活動といたしますか、そういうものがどういうものがあるか。要するに、今の市民の方が元気でないと、外から人に来てもらうということはなかなか難しいというふうに考えております。ですから、外向きも当然なんです、今の市民の方に対してどうあるべきか、市の行政としてどうあるべきか。その施策がひいては外から来ていただける方に対する施策に結びついていくというふうな意識も持ちながら最終的にはやっていく必要があるというふうに考えておりました、そういった部分も考慮した上で、今回のアンケート並びにヒアリングをやりたいというふうに考えております。

## ○ 中川雅晶委員

これで最後ぐらいにしますが、その考え自体がちょっとかたいのかなって。市民の愛着とか誇りとかを、市民にとってもそれはどうなのかなというのがマーケティングの手法なんですよ。それをよそから、こういうことがというのが気づかされるというのがマーケティングを活用しているということなので、そうじゃなければ別に市民に対してアンケートするだけで、何を誇りを持っているかというのは市民それぞれありますけど、そこにこだわっているだけでは。ただ一つ、若い世代に対して集中的に、次を生きる若い人に聞いていくというのは一つ有効なマーケティングの活用やというのがありますけど、やっぱり外から気づかされるもの、外から見て、四日市のそこはすごいよなっていうところをやっぱり発見していくということがマーケティングを活用した手法やと僕は思っているので、そのことによって改めて愛着であったりとか誇りであったりとか、感じてもらうようなものを探していくという調査じゃないですか。その辺がもう、古い考え方を取り去って、せっかくタイトルにマーケティングを活用してシティプロモーションをやっているというのであれば、その辺の考えとかというの刷新してもらわなきゃいけないですし、やっぱり新たな魅力づくりというのをまた未来に見つけて、単に、本当にこじんまりとした方策とか計画を立てて、多少、交流人口とか定住人口の移動があったというのではなくて、そういう細かい3年や5年ぐらいのスパンで数字に一喜一憂するのではなくて、やっぱりちょっと長いスパンで戦略を立てていただくというものを、一つ根本の戦略を立てていただくというのも、立てたからといってそれが永遠続くというわけではないので、日々やっぱり環境というのは変化するので、その変化にまた適応していくというのがマーケティングということを考えれば、それが継続的に適応行動を持続していくことが今回のスタートやと僕は思っているので、ぜひそういう視点でやっていただきたいと思いますが、最

後にご所見だけあれば、部長、よろしく申し上げます。

#### ○ 館政策推進部長

本当に、委員にいろいろ示唆に富んだご提言をいただきました。まさにマーケティングというのは、1回やったらそれで終わりということもないなど、今、最後のほうでお話しいただいたところ、思いました。今回は一度こういう形で試みをさせていただきまして、一度きちっとしたシティプロモーションの方策をつくり、それで全庁的な取り組みを進めていきたいと思っておりますが、それで終わりということではなくて、今後も引き続き、恐らくマーケティングというようなことは継続して何がしかの形でやっていかないかと思っております。そういった意味で長期間にわたるような方策にもつながっていくと思しますので、いろいろとご提言いただいた内容をきちっと肝に銘じて調査を実施していきたいと思っております。

#### ○ 村山繁生委員長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

#### ○ 早川新平委員

まさしく中川委員がおっしゃるとおりで、今さらというのがあって、部長が答弁されたように、最終目標は交流人口と定住人口の増加を目指すということですね。でも、今、四日市の場合にシティプロモーション、いろんなどころへ発信するんやけど、ここの施策の連携というところの魅力を対外的にアピールする場合、施策ごとの発信、例えば、広報、観光、環境などと。環境といえば、四日市公害を克服したという立派な実績があるわけですよ。でも、例えば観光というのは、前市長の時代に観光元年とか文化元年ってアドバルーンは上げました。四日市の観光って、これは部分的な問題で、観光に来たけど、やっぱり産業遺産やと四日市は思っておる。それぐらいしか私は正直ないと思っております。

現実、潮吹き堤防に駐車場もない。日本で1個しかないはね上げ橋、あれ、よく写真は撮りに来てみえるんですよ、皆さんが。だけどトイレもない、座るところもないという。逆に言ったら、おもてなし。四日市へ、こういうことがあるらしいよと行きました、行って何やという、これ、逆にマイナスになるんですよ。本来であれば、こういう準備を全部

してある、皆さんに来てください、アピールして、来てよかったなということであればええけど、こういうものがありますよというだけで、そこから先というのが全然ないんですよ。それで、逆に言ったら、呼んだら恥ずかしいよなというのが四日市市民のアンケートで出てくると思います、いろんなところで。

地元って逆に貴重なものを意外と知らなくて、よそから立派なやつがあるな、日本で1カ所残っているんやな、はね上げ橋なんてとって、写真も現実にたくさん撮りにきている。そろそろ歩いて行って、座るところがない、トイレもないという。こういう部分というところは前から指摘されておるわけですよ、もう六、七年になるわけですよ。それで何の改良もされていない。潮吹き堤防でも、モニュメントはあるけれども車すら入れない。そういったところを、せっかくシティプロモーションで四日市へ呼びたいということであれば、それ相応の準備をやっぱりしなきゃいかんというふうに思っています。これが逆に、四日市がアドバルーンを上げているけど、行ったけど何や、全然受け入れ態勢ができていないよね。先ほど中川委員が、観光でこれから客船が来ると、そういったところにそういったものをといたところで何の対応もない。そこが小さな部分的な一つの指摘というところ。

現実、定住人口をふやそうと思ったら、これは、政策推進部が一番よくご存じのように働く場所がある。四日市はおかげさんで今のところあります。そういったところで、名古屋から見ればベッドタウンかもしれんけれども、四日市も産業という一番難しいところが整っているんで、そこらあたりのところというのは、やっぱり行政ができる部分と民間ができる部分、行政ができない部分、そこを連携していかんと。だから、例えば先ほど言った観光施設、産業遺産、ここのところというのは行政がやらなきゃならんところやし、行政しかできない部分というのもあるので、何でもかんでも風呂敷を広げてやるのではなしに、それに対する対応というのはやっぱり考えていかんと、アドバルーンは上げたけれども何も変わっていないじゃないというところが非常に私は感じるんですよ、議員の立場として。前市長時代から観光元年、四日市に観光って何がある、産業遺産しかないよね、立派なものがそのかわりあるよねと。そこの受け入れ態勢とか、私が今お話しさせてもらったのは、そこの部分的な小さなことかもわからんけれども、この姿勢がないと全て、アドバルーンを上げたけれども中身が伴わないよねというところが私は一番大事やと思っています。ご意見があれば。

## ○ 館政策推進部長

本当にご指摘いただいた内容を、私もそう思うところもございます。やはり、次から次へ新しいこと、新しいことと何でもかんでも外へ向かってアピールしていけばいいかという、そうではないかと私も思います。

したがいまして、今回、戦略的なシティプロモーションという表現をしておりますのは、やはりいろんないいところがあって、四日市もいろんないいところがあり、誇れるところもあり、産業もあり、それから自然もありという、何でもある四日市なんですけれども、どこに焦点を絞って外に向かってPRをしていくと四日市に目を向けてもらって来てもらったり住んでもらったりできるか、ここを少しあぶり出さんとあかんのと違うかと。

ですから、今、市長は教育のまち、子育てするなら四日市というようなことをおっしゃっております。それは一つの市長の公約としての外に向かってのアピールでございますので、例えばその部分であっても、じゃ、子育ての部分でもどういうところか、教育でもどういうところかというあたりも、もう少しターゲットを絞って、ここを四日市として推していくんだというところもあぶり出した上で、そこを戦略的に外に向かって発信していきたいという、この中で出していきたいという思いがございます。

ですから、本当に何でもいいからどんどんPRして、実際に先ほど反省せなあかんの、PRはしたけど来てもらったら受け入れ態勢がちゃんとできていない、マイナスやないかと。これ、本当に私も気をつけないといけないと思います。

したがいまして、単にここがいいからどんどん何でも情報発信したらええということではなくて、きちんと厳選をして、その後の各種の施策も用意した上で情報発信していくと。それが、結果的にそういうのがないと定住に結びつかないと思いますので、そういったところに十分配慮しながら戦略をつくっていききたい、シティプロモーションの考え方、方策をつくっていききたいと思っております。先ほど中川委員も申しましたように、全庁的な形の取り組みをしていかなあかんと思っておりますので、今おっしゃっていただいたことも十分気をつけながら進めていききたいと思っております。

## ○ 早川新平委員

ありがとうございました。

今部長おっしゃったとおりやと私は思っているんやけれども、市長が子育てするなら四日市って教育施策を重点的ににおいて、本来であれば全部を満遍なくやらないかんのやけれ

ども、重点政策をやっているのやったら、ほか、少し辛抱してでもこれというアピールする場所、こういう施策をやったりやっぴりやっぴりいかんと、何でもかんでも、何でも屋さんになってしまうと、何も特色が逆になくなる。かと言って、私がさっき観光施策と言ったのは、前市長が七、八年前におっしゃったから、アドバルーンを上げたから、上げるだけやったら誰でもできるので、それなら何も観光元年とか文化元年とか余り言わないほうがいいと思うんです。それは政策推進部が中心となって進言しなきゃいかんところはあるし、それから、その政策をどういうふう to 実現させるかということで対策を練っていかなあかんのが政策推進部やというふう to 思っているの、今さらアンケートをとるとするのは逆に、結論としては、やるなということではないんですよ、遅いぐらいやなど。それをせっかくアンケートをとるのなら有効に活用していただきたいと。これはやっぴり早急にやらないかんと思いますよ。

以上です。

#### ○ 村山繁生委員長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

#### ○ 森 康哲委員

今、早川委員の質問を聞いていてふと疑問に思ったのは、今までやっていた産学官連携ってどう考えているのか。産学官連携はうまくサイクルを回すことによって定住人口、優秀な学生を、就労の場を、地元で働いてもらって定住人口をふやすと。そういうことも考えていたと思うんですけども、全然そういう面での調査はしないんですかね。

#### ○ 館政策推進部長

目的の一番最初でございますように、四日市のものづくり産業をリードして、さらに発展をしていくためには人材育成というのが必要ですから、ここにはちょっと表現はないんですけど、そういう人材育成といった面のところにターゲットを絞って情報発信をしていくところを、これはやっていきますけど、それを集中的に情報発信していくかどうかについてはこのアンケート結果の中で、あるいは、四日市に対する市外の方々からのイメージの中でそれをある程度あぶり出して、それが有効だということになってくれば、それをメ

ーンでやっていくということはありませんが、従来からやっております四日市大学と協働でやっている地（知）の拠点の取り組みであるとか、あるいは、AMICでやっておる産業界での産業の人材の育成であるとか、そういったものを否定するものではございません。そういうのはきちんとやっていきます。

これからも続けていきますけれども、今回は、外に向かって情報発信をするときに、どこにターゲットを当ててやっていくかというのをあぶり出したい。特に市外の方々、あるいは近隣の市外の方々は、どこに四日市というところに対して食いついてきてくれるのかなというところを見ないと、やみくもに四日市は産業があります、雇用があります、それから、ちょっと行くと自然もあります、それから、ショッピングモールもできます。いろいろありますということ、いいところをいろいろ、単にずっと満遍なく発信しておっても、なかなかそれでは他の都市との区別、差別化もつかないということもございまして、決していろんな施策をこれでやらないということではないです。従来やっていることはやっていきますが、特に情報発信をしていくときに、どの部分にターゲットを絞って、そして効果的に発信していったら、場合によっては、その部分の施策を少し厚目にやるといったところを最終的にあぶり出していくのかなという思いでございまして、決してこれまでのいろんな取り組みをこれで全部ご破算してということではございませんので、それはやっていきますので、そこは私の説明がちょっと不十分だったかもしれませんが、対外的にそれに向かってどういうところら辺を強くアピールしていくかというのをあぶり出していきたいというところでございます。

## ○ 森 康哲委員

以前にも指摘したことなんですけれども、四日市大学は、開学当初は四日市市も学生の採用があったと。だけど、ここ数年ゼロが続いていると。四日市大学の卒業生の採用がゼロだということで、地域枠を設けたらどうかとかそういう提案もしてきたと思うんですけれども、何の進展もないんですね。何でこんなことを言ったかという、やはり地元で育った優秀な生徒を地元で雇用して、そしてここで働いていただいて、子供をつくっていただいてというサイクルを設けてもらうためにそういう質問をしたと思うんですよ。だけど、そういう効果がないので、その上でまた何の調査をするのかなと。課題があつて、それが解決していないのに、どんどんどんマーケティング調査だけ実施して課題をふやすのはいかがなものかなとは思いますが。工業高校の高専科もありますよね。そうす

ると、やはり工業のまちである以上、そういう優秀な生徒をどういうふうに企業に雇用していただけるような道筋をつけるかとか、そういうところもやはり焦点を当ててやっていく必要性はあると思うんですけど、その辺の考え方は。

## ○ 館政策推進部長

済みません。議員のおっしゃること、よくわかりました。要は、四日市の人材が出ていくのをまずちゃんととめなあかんやないかということですね。これはもうまさにそのとおりでございますので今回のこの調査の中ではまた別のところかもしれませんが、きちんと内部で人材育成、四日市に愛着を持てる人材をつくって四日市にとどまってもらえるような、そういった施策はそれぞれ——これは教育の中にある人材育成であったり、先ほどおっしゃっていただいたような今後、専攻科もできてくる中で——そういう人材がちゃんと市内の事業所等に就職できるような取り組み、そういったことも、これは商工農水部のほうとも連携しながら、そういった取り組みは、これはこの中ではございませんが、別途きちっとやってまいります。ですから、出ていくのは当然とめないといけない。その視点はきちっと持ちながら施策を打っていきたいと思います。

## ○ 太田紀子委員

今、3人の方のお話を聞いていて当然と思うんですけども、いろんなことを考えた場合に、それこそ本当に尻切れトンぼというか、なかなか最後まで決着を見ないままいろんなことを進めてもらっている。内容を一つ一つ見たら本当にいいことばかりなんですけど、例えば、今度、大型客船が来る。私が一番心配しているのは、観光都市にしたいと言いつつも、それだけの人を集客できる場所だったり楽しめる場所があるのか。ただ通過点になって、お伊勢さんに行きます、桑名市に行って、長島リゾートに行ったり、菰野町へ行ったり、サーキットへ行ったりという、あくまでも通過点になるんじゃないだろうかという心配。そのためにどういう受け入れ態勢をしたらいいのか、どうしたらいいんだという、そういうことも考えていくのも大切ですし、交流人口プラス定住人口って考えるならば、それでどれだけの人がリピーターとして来てくれるか。1回こっきりで終わり、1回見たらいいじゃないか、1回体験したらいいじゃないかじゃなくて、例えばサーキットは、あくまでもレースのファンの方が県外からどんどんと人数的には減ったといっても押し寄せる。長島リゾートも、遊園地があります、安く物が買えます、お風呂に入れますというの

でリピーターがいる。四日市でそういったものがあるか。

確かに先ほどいろんな、駐車場やその整備で言うなら、あすなろう鉄道、本当にお天気の良い日、カメラ小僧ならぬカメラおじさんみたいな人がたくさん来てみえるけれども、正直いって車をとめちゃいけない場所に車をとめて一生懸命撮影してみえる。その方々にも、本当は電車に乗って、降りてもらって、写真を撮っていただく、まちの中を歩いてもらって、そうしてもらいたいけど、それだけの魅力がないから車で来てというあれなのかも。それともどこか起点になるところにちゃんとした駐車場を完備して、そこから電車に乗って1日まちの中を歩いてもらって、駅を降りてもらって、歩いてもらって楽しんでもらえるという、そういう長いスパンで見る、1日楽しめるというところが余りにもないんじゃないかなと思えるんですよね。

アンケート調査はもちろん大事なことと思うんです。若い女性の方にとっていただく、一番若い女性の方がそういう意味で情報とかいろんな思いもあるだろうと思いますけれども、でもやっぱり、どんな年代の方にとってもらうにしても、四日市がどういうことの姿勢でどういうことをやりました、どう思われますか、だからどうしないとだめですかという、逆に今までの検証をするということも大切なんじゃないだろうか。課題だけを、先ほど森委員も言われましたようにふやすんじゃないで、解決をしました、それに対して市民の方はどう思っていますか、表から見られたらどう思っていますかという、そういう検証をしていく必要も一つはあるんじゃないでしょうか。そこから新たに見い出せるものというものも多くあると私は思うんですけど、いかがでしょうか。

## ○ 館政策推進部長

やはり太田委員からも先ほど早川委員のところでも出ましたように、いろんなことを打ち出しても、それに対するおもてなしというか、備えができていないところら辺のご指摘をいただきました。

ですから、ここはやはりほかの部局ともそれぞれ、商工農水部であったり都市整備部であったり、いろんな部局がやっぱり絡んで――あすなろう鉄道というとなってきまよね――これは総合的にやっていかなあかんと思います。そういう意味で、だけど、じゃあ、全てのところにそれを全部整備、ハード整備ができるかという、やっぱりそれもまた限界もありますので、どこに集中的にやるかということも考えていかないといけないと思います。

したがって、それをやっていく上で、これまでの反省点というものは当然踏まえた上で次なる戦略をつくっていかないといけないと思いますので、これまでどういうところら辺に反省点があるのかと、これまでやってきた観光とか、あるいは外に向かってきたシティプロモーションのやり方、これについて、どういった点がまずかったのか、きょうもいろいろご指摘をいただいていますので、そういった点もまず踏まえた上で次なるものに行くように、それはもうきちっと気をつけながら検討していきたいと思います。

#### ○ 太田紀子委員

ぜひともそうしていただきたいのと、あとは九州ですかね、何もしなかったがゆえに残ったまちというので、昭和のまちということで、何万人も年間、全国、海外からも来るといふ場所があったりという部分を見ると、もう一度四日市の再検討というか、再発掘してもいいんじゃないかなと思ってみたり、ひな形どおりのアンケートじゃなくて四日市独自のアンケートじゃないと、ひな形どおりだったらほかの市町と変わらない結果しか出てこない。もっと刷新的な取り組みをしようと思ったら、そういうアンケートのとり方も必要なんじゃないかな。ひな形どおりだったら、多分どここの県が実施したアンケートの結果と余り変わらない。四日市がそれを何年かか毎年かしても、やっぱり大して結果が変わらないものが生まれると思うので、よほど独自性のあるものにしていかないと、せっかく予算を使うんだったら、そういうことも考えていただきたいなと思っております。

#### ○ 村山繁生委員長

ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。

#### ○ 笹岡秀太郎委員

まず内容ですけど、調査するのは、市内初め名古屋圏等の大都市部と、こういうふうになっておるけど、具体的に名古屋圏等の大都市部、どのあたりをイメージ。

#### ○ 渡辺政策推進部理事

圏内といいますか、四日市を取り囲む市町を念頭に置きながら、名古屋市を中心に愛知県――距離的な部分もございますけれども――名古屋市だけでもなくて、その周辺の市町

というイメージであります。三重県内全部という考え方もあるんですけども、どちらかというと周辺、三重県内は周辺というイメージで今のところは考えてございます。

○ 笹岡秀太郎委員

そうすると、例えば東京とか大阪というのは、イメージに入っていないというところでもよろしいんやね。

○ 渡辺政策推進部理事

大阪並びに首都圏といいますか、そちらのほうも事前に検討は私も中でしました。まだ最終的にするしないというわけではございませんけれども、特に首都圏ということになりますと、言い方は悪いですけど、やみくもに四日市やけどというアンケートをとったときに、その内容の答えといいますか、効果はどうかというふうなこともいろいろ内部で協議をしました。ただ、ゆかりのある方といいますか、私どもは東京事務所もございますので、首都圏であればそのゆかりのある方に、先ほど来お話ありましたけれども東京から見た四日市といいますか、そういうご指摘をいただくような、アンケートなのかヒアリングなのかということもありますけれども、そういう機会は設けるべきではないかなというふうには考えてございます。

○ 笹岡秀太郎委員

そうすると、目的の中にある東京1時間半の圏内に位置する優位性というのは、余り説得力がないんやわなというイメージを持つんやけど。別にクレームでも何でもないんやけど、せっかく目的の中にリニアを挙げてきていただいておりますのやから、もう少しその辺が、名古屋圏だけならリニアは全く関係ないなという気もするし。どうつなげたいのか、その辺だけ教えてもらえる。

○ 渡辺政策推進部理事

2027年のというお話でございます。リニアがつながることによって、名古屋市を中心としたまちが変わるのではないかというふうなことも私も考えておりまして、これまでの東京まで1時間40分という部分がかなり短縮される。そうすると、企業、産業といいますか、その辺の分散化といいますか、そういった部分もあるのではないかというふうな思いもご

ざいます。そうなったときに、名古屋が今以上に大きな日本の中での占める位置というのが、グレードといいますかそういうものも変わってくるだろうと。そうすると、人の動きもおのずとついてくる中で、じゃあ、その機会を捉えて、四日市としてどうすべきか。先ほど来お話がありました長いスパンでというお話がございました。リニアは10年先でございます。10年先の名古屋市の状況を四日市としてどういうふうに捉えて取り組むか。この10年間でその10年後の状況も変わってくるという思いもございますので、そういった観点で取り組んでいきたいというふうに考えてございます。

#### ○ 笹岡秀太郎委員

それは大いに結構なことだと思いますけど、そうすると、今まで森市長さんは四日市に駅をとということをおっしゃったんですけど、基本的には名古屋に駅ができて、それを起点とした四日市のまちづくりというのをイメージして政策を推進していったということで、私はそれでいいのかなという気がするんですが、あわせて、三重県はやっぱり名古屋―大阪間のリニア早期開通というのを願っておるわけですね。各市長が集まって推進連盟もつくっていただいているし、議員団も東海3県で大きく結成していただいて、名古屋駅開通以降の大阪までのところの政策もしっかりと進めてきている中で、名古屋で尻切れトンボだけではこの表記はよくないなという気がするので、その辺の視点はないのかと言われたときに、やはり三重県最大のまち四日市が全体の三重県の県域のこととか、あるいは将来のところというのが抜けたところで進めていくというのは、いささかちょっと寂しいかなという気がするので、何かそこらに、目的の部分にそういうものが見えてくるといいんだけど、ここではちょっと見えないなという気がするので、これをステップにして、以降、これをまとめ上げると、恐らく何年かの間でシティプロモーションが進んでいくと思うんだけど、どこかでまた見直さなならないでしょう。その見直しの部分は結構早く来るんじゃないかなと。例えば、亀山を視野に入れた四日市のまちづくりも、やはりこれは同じように、名古屋と同じように進めていかないかんし、それを活用したシティプロモーションというのも当然出てくるだろうから、その辺の視点がどこかで見えるように、これはとにかくスタートなんですと、リニアを出すならという気がするんだけど、何かその辺あれば。

#### ○ 館政策推進部長

まさしくマーケティングということが、1回やってそれで終わりということではないと思います。ですから、今回、マーケティング担当推進理事も設置して、今後も場合によっては組織なんかも考えていく。常々やはりその状況に応じたマーケティングにあわせて効果的なシティプロモーションを考えていかないといけないと思います。ですが、今回、まず初めてさせていただいて、今おっしゃられたような大きなリニアも含めた社会経済情勢の変化の中に応じた形のマーケティングをしながら、シティプロモーション手法を今後もずっと継続的に修正しながらやっていかないといけないと思いますので、今回、まず1回目をつくらせていただきたいという思いでございます。

#### ○ 笹岡秀太郎委員

後段の部分をぜひ一文どこかに入れてほしいな。というのは、やはり三重県内で四日市が名古屋までで終わりなんだというイメージはやっぱり受けられてはまずいので。将来を見据えたマーケティングもここの中に見直しの部分で入れるんだみたいなところの表記が出てこない、なかなかやはり生きたマーケティングにならんかなという気がするので、ぜひお願いします。

以上です。

#### ○ 村山繁生委員長

ありがとうございます。

他にいかがですか。

#### ○ 中川雅晶委員

今までの議論を聞かせていただいて、少し僕の中でも整理ができて、シティプロモーションという言葉の概念というのが観光というか、さっきインバウンドも含めたシティセルズプロモーションという部分の、とりあえずお金を落としてくれる人、来てくださいというシティプロモーションと、やっぱり長期的に、仕事が名古屋でもここに居住を選択してほしいと、鈴鹿市や桑名市じゃなくて四日市に住んでいただくというシティプロモーションという、大きく分ければ、やっぱり後者の部分が今回の大きな目的の部分かなというところで理解はさせていただいて、先ほど笹岡委員からも、リニアによって環境がやっぱり激変するということ、ひょっとしたら駅がどこにつくられるかわからないですけど、

名古屋とどこかの駅の間になってしまって、その位置をいかに活用するかという意味合いにおいても選んでいただける、定住していただけるとかという部分で大切なのかなと。

転入、転出を選んでいく決め手というのを大体今までのところで調査を見ると、やっぱり通勤通学時間にどれだけ要しているとか、都心へのアクセス、都心へのアクセスといえは名古屋へのアクセスがどうなのとか、それから、近場の駅のアクセス、そもそも駅があるかないかというところも含めてとか、家賃とか住宅の価格であったりとか、町並みとか買い物の利便性とかというところがやっぱり転入、転出を選ばれるところの上位を占めてくるわけですね。そういうことも含めて、四日市市が選ばれるというような選択肢と、それから市長がおっしゃっているように、教育をするなら四日市、子育てするなら四日市ということは、そういう人たちにこれから長く四日市に住んでもらう人に選んでもらうという戦略においては、もちろん子育て支援も、さっきも周辺の都市とかと比べて比較検討するという中においてどうなのかって、総合的にどうなのとか。

それから、例えばスポーツ政策においてもどうなのか。単に優秀な人材がぼんと名古屋や東京のところに行くのではなくて、やっぱりここで選んでもらえるようなスポーツ政策だったりとか、またこっちへ戻ってきてもらえるようなスポーツ政策であったりとかというのも重要なのかなと思いますし、先ほどの大学とかにおいても、大学の誘致といったらでかい話になりますけど、サテライトキャンパスであったりとか。これはリニアが本格稼働すれば、本当に大学の教授とかというのも行き来というのは、本当にその日のうちにできたりすると、やっぱりここでサテライトキャンパス——わざわざ東京の大学に行かなくても、東京の大学のサテライトキャンパスであったりとか——ないしは、地方と都市部の交換というか、そういう時代がやっぱり来る可能性もあると、ここにそういうサテライトキャンパスを、最初に長いスパンで誘致できるような土壌をつくっていくとかというのも含めてぜひ検討していただければ、非常に今回のマーケティングを活用したものが生きてくるというか、そういうような今回の調査にさせていただくように、最後にお願ひだけしておきますので、よろしくお願ひいたします。

#### ○ 村山繁生委員長

意見でよろしいですか。

#### ○ 中川雅晶委員

はい。

○ 村山繁生委員長

他にいかがでしょうか。

○ 森 康哲委員

ちょっと思い出したんやけど、以前に全日本の大学の将棋の大会が四日市で開催されているよという話を僕したんですけれども、毎年、じばさん三重で大学生の全国大会を開催しているんですよ。今、藤井聡太さんが27連勝して、今度28連勝がかかった試合があると。その相手、誰かご存じですか、今度王将戦の予選で。前、竜王戦で千日手になった相手で澤田六段、暁高校出身の人なんですよ。そういう情報もやはりアンテナを高くして仕入れておけば、何かにつながっていくと思うんですよ。

○ 村山繁生委員長

それは四日市でやるんですか。

○ 森 康哲委員

いや、竜王戦は違いますけれども。大学生の全国大会は毎年四日市のじばさん三重でやっておると。藤井聡太さんの今度の相手は、鈴鹿市出身ですけれども暁高校出身の方なので、四日市にゆかりがあるよと。また、観光大使とかも含めて、いろいろな角度で四日市の魅力発信というところにつなげていけばなと思うので、一言。

○ 村山繁生委員長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。よろしいですか。

○ 早川新平委員

1200万円のマーケティング調査費用、これ、結構大きいものやと思っています。その後、これをどう生かすかが一番大事なので、これをやったおかげで5億円、10億円の経済効果が出れば安いものやけれども、やっただけで終わりということにはくれぐれもないように。

とりました、こういうことでしたので終わるんやなしに、そこからそれを基礎として何をするかだけを、ここにも書いてあるけれども施策に反映するということが書いてあるので、僕はオーケーなんで、ただ、本当に有意義なアンケートをとっていただきたい。それ以降も、調査費用とは別なんだけれども、それを活用していただきたい。有効なアンケートをとってください。

以上です。

○ 笹岡秀太郎委員

この事業者ですけど、例えば四日市市内に該当するそういう事業所はあるの。

○ 渡辺政策推進部理事

今、大きく想定していますのは、いわゆるシンクタンクといいますか、そういった業者さんをお願いしたいなという思いでございます。今回、議会のほうでとられた意見募集も拝見しました。その中で、ある一つですけれども、全国の自治体で同様の調査を行った経験が豊富な業者さん、こういったところの提案を適切に評価し、意味のある政策につなげてほしいみたいな表現がございました。その辺のところはプロポーザルという方式を活用しながら、私どものほうでしっかりその辺を把握した上で決めていきたいというふうに考えております。

○ 笹岡秀太郎委員

今の市民意見にあったように、やはり経験の抱負なところを選んで効果的な提案をしてもらわないかんで、その辺十分慎重にやっていってください。

以上です。

○ 村山繁生委員長

ありがとうございます。

よろしいですか。

(なし)

○ 村山繁生委員長

それでは、他にご質疑もないようですので、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論がありましたらご発言願います。

(なし)

○ 村山繁生委員長

討論もないようですので、これより採決を行いたいと思います。

それでは、議案第2号平成29年度四日市市一般会計補正予算（第2号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費中関係部分について、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○ 村山繁生委員長

ご異議なしと認め、本件を可決すべきものと決しました。

[以上の経過により、議案第2号 平成29年度四日市市一般会計補正予算（第2号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費中関係部分について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

○ 村山繁生委員長

可決されましたけれども、どうぞ今のいろんなご指摘がありましたので、ぜひ参考にしてくださいと思います。

それでは、ありがとうございました。

それでは、10分程度休憩したいと思いますので、15分再開をお願いいたします。

11：02 休憩

11：15 再開

○ 村山繁生委員長

それでは定刻になりましたので、ただいまより危機管理監のほうに移ります。  
まず、危機管理監より、ご挨拶いただきます。

○ 山下危機管理監

危機管理監の山下でございます。

梅雨入りが発表されて晴れの日が非常に続いておりますけれども、これから出水期に入  
ってまいりますので、そういった大雨に対する危機管理なんかには気を引き締めて取り組ん  
でまいりたいというふうに考えております。

本日は、自治総合センターの宝くじのコミュニティ助成事業に係る歳入歳出の補正と、  
神前地区での総合防災拠点整備事業のための事業用地取得の議案についてご審議をいただ  
き、ご承認をいただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

説明は室長よりいたしますので、よろしくお願いをいたします。

○ 村山繁生委員長

ありがとうございます。

議案第2号 平成29年度四日市市一般会計補正予算（第2号）

第1条 歳入歳出予算の補正

歳出第2款 総務費

第1項 総務管理費中関係部分

○ 村山繁生委員長

それでは、議案第2号平成29年度四日市市一般会計補正予算（第2号）、第1条歳入歳  
出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費中関係部分についての審査を行いま  
す。

まず、資料の説明を求めます。

○ 蒔田危機管理室長

危機管理室長の蒔田でございます。

それでは、お手元のタブレットで今回の予算常任委員会資料の平成29年度一般会計補正予算、第2号というところをお開けいただきたいと思います。ちょうど表紙も入れまして4ページの部分でございます。

○ 村山繁生委員長

予算常任委員会、06か。

○ 蒔田危機管理室長

06の02でございます。危機管理監という。

○ 村山繁生委員長

資料のほうはよろしいでしょうか、皆さん。

じゃ、お願いします。

○ 蒔田危機管理室長

それでは、タブレットをごらんいただきながらということで、ご説明に入りたいと思います。

ちょうど1枚をはねていただきまして、2ページ目となります。2ページ目につきましては目次ということで、本資料につきましては1ページ、2ページということになっておりますので、引き続き次のページへ入らせていただきたいと思います。

紙面ではちょうど、タブレットで4分の3ページということになります。

こちらの表のようなものにつきましては、地域防災組織の育成助成事業、自主防災組織育成事業の中の実績の推移ということでお示しをさせていただいてございます。

補正予算の資料につきましては、予算書の14ページと15ページということになります。

ちょうどこの資料につきましては、平成25年度から今年度29年度にわたりまして、それぞれ申請をした実績が記載させていただいてございます。

当市におきましては、平成25年度の四郷地区と水沢地区の2本を実績としては計上させていただいてありますが、平成26年度の神前さん、27年度の塩浜、水沢、小山田、県、それと28年度の塩浜、小山田、内部、県、海蔵の五つにつきましては、いずれも不採択でございました。

実は今年度、29年度につきましては、一番最下段になりますけれども、塩浜地区連合自治会、放送設備やスピーカーの整備ということで、それが1点。2点目、内部地区の自主防災隊、浄水器やガス発電機の整備。それと3本目、県地区、県地区自主防災協議会、簡易無線やダイレクトバルブの整備ということで、この三つが採択をされました。

総事業費につきましては、塩浜につきましては380万5000円、補助の金額については200万円でこれも上限いっぱいです。次、内部につきましては202万円、これは一部経費を引かれておりますので190万円、県地区81万7000円、これも一部経費を引かれておりますので80万円ということで、合計470万円の決定ということになりました。

それで、4分の4ページ、もう一枚めくっていただきたいと思います。

こちらのページにつきましては、一般財団法人の自治総合センターに三重県を通じて申請をするわけなんですけれども、このページにつきましては、本市の順位のつけ方ということで考え方を示させていただいてあります。

事業の概要につきましては、一般地域の住民が当該地域を災害から守るために自主的に結成した組織、または、その連合体が行う地域の防災活動に直接必要な設備等——建築物、消耗品は除かれます——の整備にかかる費用の補助として、下限が30万円から上限が200万円の100%を行うものでございます。

優先順位の判断の基準ということで5番までつけてございます。1番は、過去の補助実績のない団体を優先いたします。2番、前年度までの申請回数が多いものを優先いたします。次が3番です。事業の公益性を考慮して、自治会自主防災隊よりも地区連合自治会地区防災組織が行う事業を優先いたします。4番目、過去の助成実績が少ないものを優先いたします。5番目として、事業金額の大きいものを優先いたします。このような順位づけにおいて申請をさせていただいて、先ほど申し上げました塩浜、内部、県の3地区につきましては補助決定をいただいたものでございます。

続いて、資料の中で、もう一度ちょっと戻っていただきまして、6月補正予算の参考資料ということでお開きをいただきたいと思います。少しタブレットを戻していただき、本会議の中から入っていただきたいと思います。

## ○ 村山繁生委員長

補正予算参考資料。

○ 蒔田危機管理室長

本会議の中から05の29年6月定例月議会、続いて07の平成29年度6月補正予算参考資料と。

○ 村山繁生委員長

よろしいですか。

どうぞ。

○ 蒔田危機管理室長

このページにつきましては21ページあります。21ページのうちで、画面上は21分の4となります。よろしいでしょうか。21分の4です。

○ 村山繁生委員長

どうぞ。

○ 蒔田危機管理室長

よろしいでしょうか。このページにつきましては、先ほど目的につきましてはもうご説明を申し上げましたので省略をさせていただきます。2番の内容へ入らせていただきます。

この助成事業につきましては、自主防災組織等のうち、自治会を中心として結成された組織、連合体の活動を促進することで地域防災力の向上を目指すものであり、災害の被害防止活動及び軽減活動に直接資する設備等の整備を対象とされております。

本件につきましては、この29年3月30日付で、三重県を通じて先ほど申し上げました3件の助成決定通知を受けたことから、今回の補正に至ったものでございます。金額等につきましては先ほどもご紹介しましたので省略をさせていただきます、3件合計470万円でございます。

説明のほうは以上でございます。

○ 村山繁生委員長

ありがとうございます。

説明はお聞き及びのとおりでございます。

これより質疑に入ります。質疑のある方、ご発言ください。

○ 森 康哲委員

海蔵地区から出ている防災倉庫の助成金が不採択になっているんだけど、これ、2年続けてなんですよ。それに対して、県で不採択になったということだと思えるんですけども、市としては、これの救済措置なんかは考えていないんですかね。

○ 蒔田危機管理室長

先ほど、森委員のほうからは、海蔵地区の防災倉庫、発電機等の整備が2年続けて申請をしたところですが、今回不採択になったが、市としてはどうかということでご質問を頂戴いたしました。

コミュニティ助成事業につきましては、一般財団法人のルートはルートなんですけれども、私どもといたしましては、地区防災組織への補助の制度がございまして、一応それぞれの地区で50%の半分の補助にはなりますけれども、そのあたりで地区として取り組んでいただきたいというふうに考えております。

以上です。

○ 森 康哲委員

一地区に120万円程度だと思えるんですけども、防災倉庫や発電機となると、たとえその半額補助にしても、かなりの割合を占めることになると思うんですね。それを一地区、ましてや一単位自治会で要望を挙げたとしても、その地区内で採択をされるとは考えにくい。ほとんどの予算を消化してしまうような要望というのは、これは別メニューでそもそも考えるべきであると思うし、以前、防災倉庫の別メニューはあったと思うんですが、それを終了して新たに地域に120万円程度の補助金というメニューを出したと思うんですけども、その後に東日本大震災が発生して、津波に対しての国民の意識が変わっていると。そして、危機管理意識も大きく変わっている中、やはり自主防災組織の資機材や整えるいろいろなものが変わってきている中で、もう一度そういう補助メニューを見直すことを考えていかないかと思うんですよ。何度もこうやって要望が挙がるものに対しては、四日市独自の考え方をまたつくっていかなくとも思うんですけども、その辺の考え方は、危機管理監、どう思っていますか。

○ 山下危機管理監

確かに、今、ハードは2分の1で、ソフト事業は100%という補助金にしております。確かに副議長がおっしゃられたようにいろんな、倉庫だけではなくて、トランシーバーやらホースやらポンプやら、いろんなものがそれぞれ高額なやつについて、確かに単位で持ってみえるやつなんかいろいろご議論はございます。それで、ただ、あれもこれも別々に要綱をつくっていくというわけにまいりませんので、1回、ことし、夏に室長のほうで全地区、地区回りで回らせてもらって、その補助金の中身も少し皆さんにご意見を聞きながら、どんなものが一番、今のうちの要綱を見直すためには何が一番必要なのかということ1回ちょっと検証していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○ 森 康哲委員

今の補助メニューの中で賄えるものならいいですよ。だけど、何回挙げてもこれは難しいであろうというものは、やはり別途考えるべきだと思いますし、それだけニーズが変わっている現状があると思うので、その土壌をやはりしっかり調査していただいて、補助金につなげていただきたいと思います。要望したいと思います。

以上です。

○ 村山繁生委員長

要望でございます。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。よろしいですか。

(なし)

○ 村山繁生委員長

それでは、他に質疑もないようでございますので、これより討論に入りますが、討論はございますか。

(なし)

○ 村山繁生委員長

討論もございませんので、採決に入ります。

議案第2号平成29年度四日市市一般会計補正予算（第2号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費中関係部分の原案について、決することにご異議ございませんか。

（異議なし）

○ 村山繁生委員長

ご異議なしと認めて、本件を可決すべきものと決しました。ありがとうございます。

〔以上の経過により、議案第2号 平成29年度四日市市一般会計補正予算（第2号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費中関係部分の原案について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。〕

○ 村山繁生委員長

それでは、続きまして、議案第6号のほうについて説明を求めます。

議案第6号 土地の取得について

○ 蒔田危機管理室長

危機管理室長の蒔田でございます。

引き続きまして、議案第6号土地の取得ということでご説明を申し上げたいと思います。タブレットのほう、ご用意よろしいでしょうか。平成29年度6月定例会議会6月14日追加配付議案書ということになります。

ちょうどタブレットの紙面でいきますと14ページものになります。説明を14ページの5からスタートさせていただきたいと思います。

○ 村山繁生委員長

よろしいですか。

もう一回言ってください。

○ 蒔田危機管理室長

タブレットの本会議、続いて、平成29年6月定例会月議会、05です。その中の17番、6月14日追加配付議案書、6月16日上程分というところです。

○ 村山繁生委員長

よろしいですか。

お願いします。

○ 蒔田危機管理室長

済みません。タブレットの紙面でいきますと、14分の5というところからスタートさせていただきたいと思います。

本件につきましては、先ほど冒頭に危機管理監のほうからもご案内をさせていただきました寺方町、曾井町にまたがる総合防災拠点事業整備のために土地を取得するものでございます。

1といたしまして、取得する土地及び面積でございます。四日市市寺方町字東谷979番ほか39筆になります。合計の面積につきましては2万6330.45㎡でございます。目的につきましては先ほどご説明させていただきました。省略をさせていただきまして、あと、取得の相手方となります。相手方等は、個人情報につきましては少し空欄のところがございます。この2万6330.45㎡の地権者の方々につきましては、全部で54人の地権者の方がおみえでございます。本件記載の中では53人の今回の契約となっておりますので、ご確認をいただければと思います。寺方町からずっと入りまして曾井町に至るところになります。ちょうど紙面でいきますと、かなり送っていただきまして、14分の11が最終のところとなります。曾井町の字西谷の1451番及び1452番のところが最後となります。

本件を提案する理由といたしましては、土地を取得することについて、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例第3条の規定により、議会の議決を要するものでございます。これが本議案を提出する理由でございます。

それで、タブレットのほうでいきますと14分の13です。ちょっとした位置図ということ

で図面を示させていただいてあります。寺方町、曾井町にまたがる約2万6000㎡の土地で  
ございます。介護総合センターかんざきを囲むような形で土地の取得をしたいということで、  
図面をつけさせていただいてあります。

こちらの説明につきましては以上でございます。

○ 村山繁生委員長

いかがですか。

どうぞ。

○ 蒔田危機管理室長

済みません。議案の案の中には各それぞれの個人さんのお名前であったり取得の金額の  
記載がございますけれども、こちらのタブレットには、特にそのあたりは省略をさせてい  
ただいてございまして。

○ 山下危機管理監

資料のほうで、ペーパーで四日市議会定例会議案、こちらというのは配付はされていま  
すでしょうか。

こちらのほうには個人名と金額、幾らかというのが記載されておりますので、こちらを  
見ていただければそれはわかるんですが、タブレットのほうは個人情報ということで外し  
てあるということをご理解をいただきたいというふうに思いますので、よろしく願い  
いたします。

○ 村山繁生委員長

以上ですか、説明は。

説明はお聞き及びのとおりでございますが、質疑の中で、もし個人名にどうしてもこれ  
は必要だということであれば、これは個人情報となりますので非公開になります。多分そ  
の相手先のことは別に議論をここですることではないと思いますけれども、もしどうして  
もここで議論をしたいというのがあれば非公開になりますので、その旨、ご了承願いた  
いと思います。

それでは、質疑のある方はどうぞご発言いただきたいと思います。

○ 早川新平委員

2点、ご質問します。

議会運営委員会でも話が出たんだけど、6月16日って、何でこんなところへ出してきたんやという理由。多分、後で答弁を聞けばわかるんだけど、何で6月16日になったかという理由と、もう一点は、位置図で見せてもらおうと、介護総合センターかんざき、これが下の3分の2ぐらいのところにあって、使い勝手が悪いんやろうなど。こういうふうになった理由、この2点をお願いします。

○ 村山繁生委員長

2点、まず、なぜ6月16日になったかということに答弁願います。

○ 蒔田危機管理室長

本件、6月16日にご提案をさせていただいた理由ということで、地権者の方が、昨年度よりずっと進めてはありましたけれども、地権者の方との契約の段階——仮の契約ですけれども——そういうのが相整ったのが本当に直前になったということが、これしか理由はございません。

それと、あと位置図につきましては、委員のほうからもご提案がございましたけれども、介護センターを囲うような格好でということになっております。

この部分につきましては、全体に大型自動車の出入りを一つ考えているというのと、一つ大きな土地ですので、排水調整機能を最終的にはどこかに設けないといけないという部分、それと、一般車両も当然入りますので、2方向なり3方向なりの車の出入りを考えてこういうふうに物流等の行き来を考えたところ、広い道路からの出入りがよりあったほうが良いということで、このような形といたしました。

以上でございます。

○ 早川新平委員

ありがとうございます。

最初の6月16日、理由は少し前からもう皆さんは大体わかっておったんかなと思うんですけど、議会運営委員会のほうでは、議員説明会のときに、こういう理由で上程させていた

だく予定がありますとか一言やっぱり言っておかんと、唐突に出てくるとなぜやという疑問を一つ抱くというのがあるのでお伺いをさせていただきました。

それから、2点目の位置図を見せていただくと、室長に今お話ししていただいたんだけど、これで介護総合センターかんざきさんへの影響、そういったことが危惧されるのかなと思って。ふだんはこういう防災の関連やから毎日は稼働しないからこれでも問題ないやろう、よし、やろうというふうにされたと思うんだけど、そのケアというのはきちっと、話し合いというのはできて、了承してもらっているかどうかというのを教えていただきたい。

### ○ 蒔田危機管理室長

この当土地とかなり近接しているというか、隣接している介護センターさんとのやり取りで、私たちのほうでも、今回の土地を取得する経緯の中で、再三そちらのほうも出向かせていただいてご説明申し上げて、市としてはここの土地の取得に入るといことでご説明も申し上げて、特段反対があったということでも全くなく、ご理解を賜ったということです。

### ○ 早川新平委員

これ、平面図ではちょっとわからんのやけれども、介護センターさんとの境界というのは平地でやるのか、枠をつくるとか、囲いを使うとか、そういう予定はあるんですか。

### ○ 石川危機管理室室付主幹

この土地を取得させていただいた後に整備ということになるわけですがけれども、当然、介護センターという福祉施設があるということも鑑みて、周囲には緩衝帯を設けさせていただいて——目隠し的な緑地かフェンスかちょっとどちらになるかまだ決まっておられませんけれども——そういうものを設けさせていただくつもりでおります。

また、センター長さんとも何度かお話をさせていただいておりますが、災害のときには自衛隊さんなり消防さんなりが来ていただくことについては、むしろ心強いというようなこともおっしゃっていただいておりますので、センターさんとは今後も協力していきながら、施設の運営、整備をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○ 村山繁生委員長

よろしいですか。

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

○ 笹岡秀太郎委員

ご努力いただいて相整ったということで、大変感謝申し上げます。

市民も心強い拠点になるのかなという思いがするので、ご協力いただいた地権者の皆さんには、やはり先祖伝来の土地を四日市市のために提供ではないけれども、そういうつながりを持った中でも出してくれたということは大変ありがたいことですから、これが相整って事業が進んできたときには、各地権者さんにやはりきちんとそれなりのお礼というか、例えば市長のほうからもお礼をすとか、そんなようなことをきちんと、市民も喜んでいきますよというあたりが伝わるようにきちんとやっておいたほうがいいのかという思いがするので、以降の取り組み、それだけちょっと留意していただければと思います。

以上です。

○ 村山繁生委員長

答弁求めますか。

○ 笹岡秀太郎委員

何かあれば。

○ 山下危機管理監

笹岡委員におっしゃっていただいたように、当然土地を手放していただいたわけですから、当然、その恩に報いるようなことをやっていきたいというふうに思っていますので、その辺は十分認識をしたいと、こういうふうに思っております。

○ 村山繁生委員長

ありがとうございます。

○ 早川新平委員

全く反対する意見ではないんですけど、参考にちょっと。これ、一括して土地の価格というのは均一なんですか。場所によって値段の開きがあるか。当然、道路に面していたらあれやろうけど、そのところちょっと教えてください。

○ 蒔田危機管理室長

早川委員のほうからは、土地の単価ということでお尋ねがございました。

このように広い場所ですので、均一ということはありません。不動産鑑定等から見ても、道路に近いところが高くて道路から離れているところが安いという一般論かもわかりませんが、今回の提示の中でもそのようにございます。差はございました。

以上でございます。

○ 早川新平委員

ありがとうございます。

ちなみに、マックスとミニマムをちょっと教えて、それは言えやんのかな、金額だけやから。言えやんのやったら別にいいけどさ。言えるんやったら教えてください。

○ 蒔田危機管理室長

ちょっとお答えは、単価的にはできるんですけども、この単価につきましては、やはり個人の取得の金額へつながっていくところがございますので、このあたりは。

○ 山下危機管理監

単価については、公開の状況では申し上げられませんが、非公開にさせていただくのであれば別にそれは、当然審議でございますのでお答えをさせていただきたいなと思っております。

○ 村山繁生委員長

非公開を求めますか。

○ 早川新平委員

別にそこまで求めないけれども、あれ、何かの資料のほうには出ておったよな。ペーパーやったっけな。これか、金額。これで自分らで割ればわかるということやから。じゃ、結構です。出ておったんで聞いて、単価は出ておらんね。

○ 太田紀子委員

計算したら……。

○ 早川新平委員

取得金額と面積が出ておるんで。

○ 村山繁生委員長

他にいかがでしょうか。

(なし)

○ 村山繁生委員長

他に質疑もないようでございますので、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論はございますか。

(なし)

○ 村山繁生委員長

討論もございませんので、これより採決に入ります。

それでは、議案第6号土地の取得について、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○ 村山繁生委員長

ご異議なしと認め、本件を可決すべきものと決しました。

それから、全体会に送るべき事項もございません、よろしいですね。

(なし)

○ 村山繁生委員長

先ほど、政策推進部で聞くのを忘れたんや、全体会、よろしいな。

○ 早川新平委員

何もなかった。

○ 村山繁生委員長

なかったでね、討論も何もなかったでね。

[以上の経過により、議案第6号 土地の取得について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

○ 村山繁生委員長

それでは、以上でもって危機管理監のほうを終わりたいと思います。

お疲れさまでした。

○ 早川新平委員

これ、事項書どおりやらなあかんのか、順番は。

ちょうど時間になったでさ、今の8番、9番なんかできるのかな。

○ 村山繁生委員長

そうでもええな、そうしようか。どうぜまた後から残ってもらわなくてはならないので。

そうしたら、時間が中途半端でございますので、財政経営部はもう午後1時からにいたしまして、その他のところで5番以降を先に皆様とご相談したいと思いますので、よろしく願いいたします。

まず、6月定例会議会の休会中の所管事務調査ですが、日程のほう余りなくて、このぐらいしかないわけです。この中から皆さんの都合の一番いい日を選んでいただきたいと思います。と思いますが、一番かかってくるのは笹岡委員の監査のほうなんです。

○ 笹岡秀太郎委員

もう進めてください、無視していただいて結構です。

○ 村山繁生委員長

いやいや、この中で都合のいい日はありますか。

○ 笹岡秀太郎委員

都合のいい日と言われると、9、10日。

○ 村山繁生委員長

いいですか。そうですか。

じゃ、順番にいきます。8月9日の午前10時の都合が悪い方。

○ 森 康哲委員

大丈夫。

○ 村山繁生委員長

じゃ、これで決まりにします。

これでよろしいですか。

(異議なし)

○ 村山繁生委員長

じゃあ、8月9日の午前10時に決まりました。

調査項目でございますが、何か皆さんのほうからありますでしょうか。

○ 森 康哲委員

継続的になるかもわからないですけど、調達契約の入札制度について。

○ 村山繁生委員長

入札制度。結構入札制度は何回かやられているみたい。

○ 森 康哲委員

何回もやっています。

○ 村山繁生委員長

そうですね。

入札制度についてということですが、他にいかがでしょうか。

○ 早川新平委員

ふるさと納税。

(発言する者あり)

○ 村山繁生委員長

いやいや、意見は出してもらわんとあかんで。

他にいかがでしょうか。

○ 中川雅晶委員

これも検討してもらっていいですけど、先ほどあった地区の防災組織の中の……。

○ 村山繁生委員長

助成金ですか。

○ 中川雅晶委員

いや、倉庫の中の資機材の中身とかというのはどうなっているのかなと。先ほどもあつ

たように、必要なものがなかなか採択されずにということがあれば、どうなのかなど。

○ 村山繁生委員長

防災倉庫の資機材の中身。

他にいかがでしょうか。

(なし)

○ 村山繁生委員長

ないようですので、以上3点、皆さんのほうからいただきました。

当然これ、一つになるとは思いますんですが、多数決よろしいですかね。

○ 早川新平委員

私はいいですよ。

○ 村山繁生委員長

三つ一遍にやれるの。2時間しかないけど。

○ 中川雅晶委員

別に、僕が提案したのは8月9日じゃなくてもいいです。またそれについては。

○ 村山繁生委員長

じゃ、2点ということでもよろしいですかね。

これ、二つということもええわけか。

○ 早川新平委員

1個のほうがあえんちゃう。

○ 村山繁生委員長

1個のほうがあね。ちょっと無理があるかな。

じゃ、どっちかに決めたいと思いますので、挙手の上、お願いいたします。  
まず、森委員の提案の入札制度についてをやるという方は挙手を願います。

(賛成者挙手)

○ 村山繁生委員長

じゃ、もう決定でございます。

調査項目は入札制度についてに決まりました。

続きまして、6月定例会議会の議会報告会のシティ・ミーティングの進め方。

進め方でございますが、一応、私の案を言わせていただきたいと思います、もしあれやなかったらまたご意見をお願いいたします。

まず、副委員長に司会をやってもらって、議会の報告のほうは、私が思っているのは、9月の決算と予算のときが多いと思います。そのときには正副を除いた3名ずつで、決算と予算を3名ずつでやっていただきたいと思います。

今回は余り少ないので、私、委員長のほうからまとめて報告させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 村山繁生委員長

じゃ、そのようにさせていただきますので、予算、決算のときはまた皆様のご協力をお願いいたしたいと思います。

続きまして、8番の、次の8月定例会議会の日程はもう10月17日というふうに決まりました。場所ですが、これは皆さんのほうにいつているのかな。

○ 中嶋議会事務局主事

正副委員長だけです。

○ 村山繁生委員長

配ってやって。

総合会館の固定がなくなりました関係で、またちょっと区分けが変わりましたので、今回、内部地区市民センターでございますが、8月も南部からスタートというふうになります。南部ブロック西ということになります、この総務常任委員会は、8月は。

それで、最近一番やっていないところが、この中でいくと小山田と水沢になるんです。どちらかにしたいんですが、どちらがよろしいでしょうか。

○ 早川新平委員

小山田は、一遍総務常任委員会で行ったんじゃないか……。

○ 村山繁生委員長

総務常任委員会で行きましたか。産業生活常任委員会が行ったんじゃない。

○ 早川新平委員

防災対策で行ったときに、サルをなんとかしてほしいと言われた記憶がある。

○ 村山繁生委員長

産業生活常任委員会で行ったときも、有害鳥獣ばかりやったね、小山田。  
じゃあ、水沢にしますか。

(発言する者あり)

○ 村山繁生委員長

じゃあ、水沢のどこがいいですか。小学校か地区市民センターか。

○ 笹岡秀太郎委員

もう一任です。

○ 村山繁生委員長

よろしいですか。

じゃ、一応水沢の市民センターか、前は茶業振興センターでも一遍やっておるけど。

○ 早川新平委員

工事やっておらへんの。

○ 村山繁生委員長

今やっておるか。

じゃ、市民センターか小学校ということで、どちらかでよろしいですか。

(異議なし)

○ 村山繁生委員長

まだ予約をとっていませんので、もしそれが両方ともとれなかったら小山田になりますが、ご了承願いたいと思います。

それから、行政視察については、一応行程表は皆さんに出るということでございますので、よろしくお願ひしたいと思いますが、現段階で全員参加で、出席ということでよろしいですね。切符の手配もありますので、よろしいですね。

じゃ、一応全員参加ということでよろしくお願ひいたします。

その他の事項でこちらからは以上ですが、皆さんのほうから何かありましたら。

(なし)

○ 村山繁生委員長

じゃ、これもちょうど、その他の事項も先に済みましたので、昼からは、午後1時から財政経営部ということでよろしくお願ひいたします。

お疲れさまでした。

11:55 休憩

---

13:00 再開

○ 村山繁生委員長

それでは、休憩前に続きまして会議を再開いたします。

ここからは、財政経営部に移ります。

まず、部長、挨拶をお願いします。

○ 内田財政経営部長

財政経営部の内田でございます。

大変暑い中、ご苦労さまでございます。本日は、私どものほうから一般会計補正予算の歳入全般についてご審議賜りたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

○ 村山繁生委員長

ありがとうございます。

議案第2号 平成29年度四日市市一般会計補正予算（第2号）

第1条 歳入歳出予算の補正

歳入全般

○ 村山繁生委員長

それでは、これより、議案第2号平成29年度四日市市一般会計補正予算（第2号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳入全般について審査を行います。

まず、資料の説明を求めます。

○ 田中財政経営部参事・財政経営課長

それでは、歳入全般についてご説明申し上げます。

予算書につきましては、12ページ、13ページとなりますが、この説明につきましては、平成29年度の6月補正予算、第2号案の概要でご説明申し上げたいと思います。タブレットにつきましては、01本会議、05平成29年6月定例月議会、05平成29年度6月補正予算、第2号案の概要をお開き願えますでしょうか。

○ 村山繁生委員長

よろしいでしょうか。

お願いします。

## ○ 田中財政経営部参事・財政経営課長

それでは説明申し上げます。今回の補正予算案でございますけれども、2ページの真ん中、下ほどに書いてございますが、一般会計のみの補正予算でございます。補正額でございますけれども、1億6341万8000円、補正後の額でございますけれども、2086億5081万2000円でございます。

今回の補正に行くまでの概要でございますけれども、上段のほうの文章に書いてはございますけれども、こちら、まずマーケティングの調査事業費を初めとする8本の事業を増額補正しようとするものでございます。今回、歳入に関連する事項ということでございますが、歳出に関連する特定財源として国庫支出金、それから諸支出金を増額するとともに、不足する額を財政調整基金繰入金を増額して収支の均衡を図ろうとするものでございます。

それでは、1枚めくっていただきまして、2ページのほうをお開きいただけますでしょうか。

それでは、歳入につきましてご説明申し上げます。一番上の歳入のA4の表のところをちょっとごらんいただきたいのでございますけれども、まず、第14款国庫支出金でございます。補正額が2227万8000円となっておりますが、こちらは下のほうの歳出の欄の3民生費、民間保育所等整備事業費と、こちらのほうに関連するものでございます。こちらの事業費を3341万8000円、保育所の整備の関係で増額しようというものでございますけれども、そちらの3分の2に相当する国庫補助がございますので、3300万円の3分の2の2200万円余りを増額補正しようというものでございます。

それから、1個飛ばしていただきまして、款20諸収入でございます。こちらは、コミュニティ助成事業助成金ということでございます。こちらは、一つ下の歳出の表の欄をごらんいただきたいんですが、第2款総務費の2行目にございますコミュニティ助成事業費補助金ということで、さきにも審議いただいておりますが、地域防災組織育成助成事業費、それから、産業生活のほうの委員会でございますけれども一般コミュニティの助成事業費ということで、二つ合わせまして920万円の歳出補正を行っているわけでございますけれども、その10分の10に相当する金額、920万円を諸収入として請け負うというものでございます。コミュニティは宝くじ関係の財団に補助採択された金額でございますけれども、

こちら、市の予算を通じて補助するということふうに財団のほうの要綱で定めてございますので、歳出を組むと同時に同額の歳入を組むと、そういった内容でございます。

続きまして、歳入の第18款繰入金、真ん中でございます。補正額1億3194万円ということになってございますが、今回、この右の歳出のところの欄で8本の事業——マーケティングから朝明中学校施設課題対策までと——を補正しようと思っておりますが、その総額が1億6341万8000円、先ほど申し上げました款14の国庫支出金2200万円余り、それから款20諸収入、こちらが920万円ということでございまして、差し引き1億3194万円の不足が生じてございます。それを今回、この財政調整基金を繰り入れまして収支の均衡を図ろうというものでございます。

続きまして、この財政調整基金の残高ですが、2ページ目の下のほうにこの表をつけてございます。一番下の欄をごらんいただきたいんですが、平成29年度6月補正ということございまして、今回1億3194万円を取り崩すことによりまして、財政調整基金の残高ですが、今現在は101億3995万2000円になるということでございます。

説明は以上でございます。

○ 村山繁生委員長

説明はお聞き及びのとおりでございますが、これより質疑に入ります。

質疑のある方は、挙手の上、ご発言ください。

よろしいですか。

(なし)

○ 村山繁生委員長

それでは、別段質疑もないようでございますので、当然、討論もございませんね。

(なし)

○ 村山繁生委員長

じゃ、簡易採決でよろしくお願ひいたします。

それでは、議案第2号平成29年度四日市市一般会計補正予算（第2号）、第1条歳入歳

出予算の補正、歳入全般において、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○ 村山繁生委員長

ご異議なしと認め、本件を可決すべきものと決しました。

[以上の経過により、議案第2号 平成29年度四日市市一般会計補正予算(第2号)、第1条歳入歳出予算の補正、歳入全般について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

○ 村山繁生委員長

これはここだけやったね。これだけですね。

じゃ、お疲れさまでした。ありがとうございました。

それでは、委員の皆様、もうちょっとだけ確認のためお残りいただきまして。

○ 村山繁生委員長

当然、今のやつ、全体会もよろしかったですよ。

今、森委員にちょっと確認しておったんですけども、今回の休会中の所管事務調査の入札制度についてでございますが、特に、まず目的と、それから、新しい資料を求められるんでしたら、その辺をちょっと確認したいんです。

森委員のほうからちょっと一つ、目的と主旨と。

○ 森 康哲委員

今までずっと総務常任委員会では、入札制度の四日市版というのを目指して取り組んできたという経緯があって、横須賀モデルを採用していたんですけども、変動型の最低制限価格、これが四日市には余りそぐわないというところで、中央公契連モデルに変更してきたと。今の現在採用している抽せん方式に落ち着いているんですけども、入札制度自体が、そもそもこれがベストだというのがなかなか見い出せない。これはもう全国の自治体全部含めてそういう状態だと思うんですけども、よりいい制度に常に変化していく必

要性があるということで、所管事務調査を通じて我々も勉強していく必要があるんじゃないかなど。そういう目的で過去の経緯を含めて今の現状、課題をあぶり出していく必要があるんじゃないかなどと思って提案をさせていただきました。

○ 村山繁生委員長

ありがとうございます。

これまでの資料は、以前に出ている資料と、現在の何でしたっけ。

○ 森 康哲委員

課題がある、抽せんが多いとか、みんなが横並びに数字になるとか、いろんな課題があると思いますので、その辺を考えて議論できればなど。

○ 村山繁生委員長

資料としては、こういう資料をお願いしたいということはあるですか。

○ 森 康哲委員

金額によっても、そのランクによっても抽せんになる率とか、また、抽せんの事業者数、そういうのが問題になっていると思いますので。

○ 村山繁生委員長

じゃ、そのところをまた資料をお願いしておいてください。

他に皆さんのほうから何かありましたら、よろしいですか。

(なし)

○ 村山繁生委員長

じゃ、総務常任委員会はこれで終わらせていただきます。

ありがとうございました。